

R 4 年 2 月 放 送 分
「令和 4 年度防衛予算案について」
(日本の防衛 Q & A)
(自衛隊百科)

R4. 1. 21 収録

【パーソナリティー】

本日は東北防衛局の市川道夫局長からお話を伺います。
市川局長、よろしく申し上げます。

【局長】

よろしく申し上げます。

本日は、昨年 1 2 月に閣議決定されました令和 4 年度の予算案について、そのうちの防衛関係予算案についてお話をしたいと思います。

令和 4 年度の国全体の予算案は約 1 0 7 兆 6 千億円なんですけれども、今さん、そのうち防衛関係費はどのくらいの金額を占めると思いますか。

【パーソナリティー】

そうですね。1 0 7 兆あまりの金額の中では割合としてはそんなに多くないと思うんですけれども、例えば 1 0 兆円くらいでしょうか。

【局長】

近いのか遠いのか評価しづらいのですが、答えとしましては、国の予算の約 5 %、金額では 5 兆 4, 0 0 5 億円です。前年度と比べると、1 %程度の増額となっています。今さんのお答えされた 1 0 兆円半分くらい、あるいはこの予算額を聞いて、多いと思われる方もおられると思います。

諸外国でも国防のために多くの予算が使われています。各国ごとに予算の制度が違うので、単純に比較するのは困難なんですけれども、例えば、昨年度の中国が公表した国防費、これは約 2 0 兆 3, 3 0 0 億円なんです。わが国の約 4 倍になります。また昨年度における主要先進国の国防費の対 GDP 比、すなわち国内総生産に占める割合なんです。アメリカが 3 %以上、ロシアが 3 %以上、フランスが 2 %程度、ドイツが 1. 3 %で、日本は 0. 9 4 %となっていて主要国との比較では、一番低い割合となっています。

【パーソナリティー】

なるほど、そうなんですね。

防衛関係費の内訳はどのようになっているのでしょうか。

【局長】

はい、防衛関係費の内訳は、隊員の給与ですとか食事のための経費、いわば人件費に相当するものになるんですけれども、これが全体の約4割を占めています。、残りの6割が、隊員の教育訓練ですとか技術研究開発、装備品の調達などのための経費となっております。

【パーソナリティー】

人件費に相当する金額が全体の4割を占めているのですね。

令和4年度防衛予算案の注目すべき点を教えてくださいませんか。

【局長】

はい、令和4年度の予算案につきましては、我が国周辺の安全保障環境がこれまでにない速度で厳しさを増していることから、令和4年度に予定していた事業を前倒しして、その結果これまでにない規模で前倒して実施することとして、令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算をいわば一体として「防衛力強化加速パッケージ」と位置づけ、一体として予算編成しました。令和3年度の補正予算をあわせると、約6兆2千億円となります。

【パーソナリティー】

防衛力強化加速パッケージですか。初めて耳にしました。

なぜ、防衛力を強化しなければならないのですか。

【局長】

はい、国を確実に守るためには、日本が自分たちの国を守る意思と能力があることを周辺国に対してしっかり示すことによって、我が国にとって有害となる行動を思いとどまらせることが必要です。さらに、それでも他国に攻め込まれるような場合には、確実に対処できるようにしておくことが必要となります。周辺各国は軍事力を強化し、我が国周辺で軍事活動を急速に加速化させるなど、我が国を取り巻く安全

保障環境がこれまでにない速度で厳しさを増しています。このためそれらに対応するための防衛力を強化していかなければならないと考えております。

【パーソナリティー】

具体的には何を強化するのでしょうか。

【局長】

宇宙・サイバー・電磁波といったいわば新たな領域における能力、総合ミサイル防空能力といったもの、我が国を取り巻く安全保障環境の変化に対応するために必要な防衛力を大幅に強化することが大切だと考えています。

【パーソナリティー】

サイバー攻撃は私たちの生活にも深刻な影響をもたらしますので、防衛省でも強化することは分かりますが、宇宙というと日本ではJAXAがありますが、防衛省でも宇宙と関係があるのでしょうか。

【局長】

はい、宇宙空間は人工衛星を活用すれば、地球上のあらゆる地域の観測を行うことができ、また地球上のあらゆる地域と通信、位置の測定を行うことができます。、そのため主要国は軍事施設の偵察やミサイルの発射を探知する衛星をはじめ、宇宙を利用した能力を向上させることに力を注いでいます。

中国やロシアは他国の人工衛星を妨害・攻撃あるいは捕獲するキラー衛星の開発・実験を進めていると指摘されています。、今や宇宙は安全保障のみならず経済社会の分野でも利用が進んでいますので宇宙システムに対する脅威が増大しています。このため防衛省としては、こうした動きに注意してJAXAをはじめとした関係政府機関や米国などと連携しながら、宇宙の状況を監視する能力の強化を図ることとしています。令和4年度は、低軌道の宇宙物体をより正確に監視できる装備の取得ですとか、宇宙設置型光学望遠鏡の整備等を行います。

【パーソナリティー】

S F 映画や宇宙戦艦ヤマトが現実になるみたいですね。

【局長】

今さんが宇宙戦艦ヤマトを知っている戸は、ヤマト世代の私としては大変うれしいですね。宇宙戦艦ヤマトといえば、波動砲を発射しますが、防衛省では電磁力により弾丸を発射する、レールガンといわれているものに関する研究を行います。

【パーソナリティー】

電磁力で発射する砲弾ですか。電磁力と言ったらリニアモーターカーを思い浮かべますけれども、やはり高速で撃つことができるのでしょうか。

【局長】

リニアモーターカーはだいたい時速500km位だと思うんですけども、レールガンは時速7200km、これはマッハ7に近いスピードですが、こうした高速度で弾丸を発射し、かつそれを連続して発射することも可能で、ミサイル防衛なんかに活用しうる可能性を秘めています。

【パーソナリティー】

ということは最先端技術の研究も積極的に行っているのですね。

ところで、近年、大規模災害や新型コロナウイルス感染症の対応等、災害派遣活動も増加していると思えますけれども、何か取組みを行っているのでしょうか

【局長】

災害派遣活動ですが、最近では令和3年7月静岡県熱海市で大雨により住宅地域で土石流が発生し、延べ約2万3千人の自衛隊員が救助活動等を行いました。また、新型コロナウイルス感染症の対応では、自衛隊大規模接種センターを設置・運営したり、自衛官を医療施設に派遣したりしています。。このような各種の災害に際して、十分な規模の部隊を迅速に輸送・展開して初動対応に万全を期すとともに、対処態勢を強化するための措置を進めています。

具体的には、災害対処起点となる駐屯地の耐震化、大規模災害等に対応するための訓練等を実施しています。また、災害等発生時におい

て迅速に情報収集を行うため、各部隊に災害用のドローンを整備することとしています。

【パーソナリティー】

自衛隊は日々の訓練や災害派遣活動の為の装備品取得等、常日頃から災害に備えているのですね。

その他には、どのような予算が計上されているのでしょうか。

【局長】

はい、東北防衛局に関係が深いものとしては、防衛施設と周辺地域との調和を図るため、飛行場等周辺の住宅防音事業などの基地周辺対策のための経費こういったものですか、在日米軍の駐留を円滑に行うため、たとえば施設の整備等に要する経費を計上しています。

【パーソナリティー】

防衛施設を安定的に使用するための経費等も計上しているのですね。

ところで、国の財政事情は非常に厳しいと伺っていますが、経費の効率化への取組みは何か行っているのでしょうか。

【局長】

はい、重要度の低下した装備品の運用停止ですとか、費用対効果の低いプロジェクトの見直し、まとめ買いをすることによる経費の抑制など、防衛力整備の一層の効率化・合理化を徹底し、約4千億円の縮減を図っております。

【パーソナリティー】

経費の効率化も取組み、実効的な防衛力の整備に向けた予算編成がなされているのですね。

本日は、令和4年度防衛予算案について、東北防衛局の市川局長にお話をお伺いしました。ありがとうございました。

【局長】

はい、ありがとうございました。

【パーソナリティー】
インタビュアーは今典彰でした。